

第4分科会

仕事の効率化と 組織の活性化を考える

助言者 岸本 至史 (幼児活動研究会株式会社 保育教育事業部長)
司会者 高橋 奈央 (宮内認定こども園)
問題提起者 萩原 心 (高千穂幼稚園)
記録者 重留 智子 (宮内認定こども園)
記録者 隈元美菜子 (宮内認定こども園)
ホスト 石田 拓郎 (宮内認定こども園)
ホスト 小川 弘然 (日当山総合こども園)
運営委員 西元 道子 (第一幼児教育短期大学附属鹿島第一幼稚園)

【研究課題】

子どもと共に育つ保育者

【研究・研修の視点】

昨今、国の政策として、保育の「量」から「質」へと議論が移りだしている。

保育の質とは「子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験」である(引用厚生労働省「保育所等における保育の質の確保・向上に係る関連資料」)。このように保育の質の向上は、未来を担う子どもたちの成長を支える大切な要素であることがわかる。

では、この「保育の質」の向上を目指す取り組みとは、どのようなものが挙げられるか。まず実際の保育現場の状況を把握し、どのような取り組みが必要か明確化するなどの、子どもたちの環境を整えること。次にその子どもたちの成長を見守る保育者の労働環境の改善、ICTシステム導入による業務の効率化などが挙げられる。

業務の効率化・一人ひとりの仕事に対するモチベーションの向上が、自園の保育の質の向上にも繋がると考える。業務の効率化により生じた時間を、研修や職員間のコミュニケーションに利用するなど有効活用することで、意識・知識・保育の質の向上に努めていきたい。

【研究の手がかり】

- ・ 日々の業務をスリム化する為に、効率よく仕事することや、計画的に仕事をする為の具体的方法を協議し合う。
- ・ 仕事に対するモチベーションを上げ、組織の活性化を図る為の具体的方法を協議し合う。

【研究計画】

◎令和4年度

- ・ 業務の効率化・職員のモチベーション向上の為、どのような取り組みがあるか職員それぞれで考え、意見を出し合い、実践・改善を重ね今後のよりよい職場作りに役立てる。

◎令和5年度

- ・ 令和4年度の研究や討議を踏まえて、自園や各園での取り組みを更に研究調査し、仕事の効率化と組織の活性化についてとりまとめを行う。

【発表の概要】

1 研究・研修テーマのとらえ方

今回このテーマを考えるにあたり、本園ではまず職員一人ひとりに労働環境としての本園の良さや働くにあたり改善すべきこと・困りごとについてアンケート調査を行った。その中で、

1. 仕事の効率化 2. モチベーション向上の為の取り組み

についてあげている職員が多くいた。そこで、本園はこの二つの項目に重点を絞り、どのように実践しているか考察していきたい。

2 研究の内容

- ・ 仕事の見える化
- ・ ICT の活用
- ・ 職員間のコミュニケーションの活性化

3 研究の方法

- (1) 現在の労働環境の状況を把握する為、職員にアンケートを取り、労働環境及び仕事に対するモチベーションの実態を把握する。
- (2) 実践例から細かくメリット・デメリットを職員間で共有し、今後の改善点を見つけていく。

4 実践例

- (1) 計画的に仕事をするために、やることリスト・仕事表を掲示

やることリストや仕事表があることで、自分自身の仕事の見える化に繋がり、仕事が効率的に進められる。期限のある仕事は、いつまでにこの作業をして、この流れで取り組めばよいと、先のことを見据え、計画的に仕事ができる。また、他の職員が書いている項目にも目を向けられ、分担して仕事をしたり、忘れていた仕事に気づいたりすることが出来る。

- (2) 業務のスリム化を図る為、ICT を活用

令和2年度より園だよりをデジタル化し、紙媒体での配布を廃止した。製本にかかる時間が大幅にカットされ、他の業務を行う時間の確保に繋がった。保護者への緊急連絡や行事の内容変更等は、紙媒体での連絡でなく「安心安全メール」を利用している。全園児へアンケートを取りたいときは、グーグルフォームを活用し集計作業もパソコン上で可能になり、集計作業の時間を削減出来た。また、園からの情報発信にはブログやインスタグラムを活用し、保護者が気軽に園の情報を知ることが出来る。

- (3) ありがとうカードを書くことで、モチベーション向上に繋がる

職員間で感謝を伝え合うカード(ありがとうカード)を書き、感謝の気持ちを伝えあっている。気持ちが嬉しくなる・読む時間が息抜きになる・相手を想いながら書くことで、字がきれいに書ける・明日からまた頑張ろうという気持ちにしてくれると、様々な意見が挙げられた。また、ありがとうカードを書くことで、普段あまり話すことのない職員のコミュニケーションツールにもなっており、職員のモチベーション向上の為、これからも続けていきたい。

5 まとめ

今回は、園内でアンケートを取ったり、職員間で話をしたり保育の質の向上の為の仕事環境の実態を改めて知ることが出来、園全体で考えや思いを共有出来た。そうすることで、更なる保育の質の向上に努めようと、園全体が一つの目標に向かって進む為の指針を定めることに繋がった。

6 今後の課題

実践例の中で述べたように、仕事の効率化を図る為の取り組みにはデメリットも見つかった。そのデメリットをそのままにするのではなく、よりよくなる為の改善、実践を繰り返し、子ども達・そして職員にとって園が幸せな場所、成長できる場所になるよう努めていきたい。

子どもの成長の為には保育者の成長が必須である。保育者の成長の為には仕事環境の整備や更なる工夫が大切となる。つまり、それが保育者の定着にもつながり成長に結びつく。その結果子ども達の成長に現れる。やりがいや喜びに繋がる職場作りをこれからも大切にしていきたい。

【討議の柱】

- ・ 仕事の効率化を図る為の各園での取り組みについて
- ・ ICT 活用と、保護者との直接的やり取りをどのように使い分けているか。

【討議内容】

① 仕事の効率化を図る為の各園での取り組みについて

- ・ 全てをデジタル化するのではなく、紙媒体も残しつつ進めていく。また、連絡アプリを活用したり、ブログなどの SNS も活用したりしている。
- ・ 月の壁面製作は、毎年使いまわしている。パソコンで、プリントを作成している。
- ・ バスの乗下車や出欠を取り入れることで朝の電話対応が減り、仕事の効率化に繋がった。
- ・ アプリ活用で出来た時間を、子ども達に還元できているか否か。
- ・ アプリにもデメリットがあり、アプリへの未記入や入れ忘れがある。
- ・ デジタル化に伴い、個人情報もれる心配もあるため注意が必要である。

② ICT 活用と、保護者との直接的やり取りをどのように使い分けているか

- ・ 入園時に、アプリについて保護者に了承を得て、園での子どもの様子をアプリで保護者に送るようにしている。
- ・ デジタル化することで、保護者とのかかわりが減っている。
- ・ 子どもにトラブルや怪我があった場合には、保護者に直接対応している。
- ・ 全体に発信する場合は、ICT を活用し、個別で対応する場合には直接対応している。

【助言者のまとめ】

助言者：岸本 至史先生（幼児活動研究会株式会社 保育教育事業部 部長）

○ 研究課題について

- ・ ①の討議テーマについて、仕事を効率的に行い、その空いた時間を子どもの為にとどのよう
に活用されるかが重要である。この「空いた時間」を何に充てるか考えていかなければなら
ない。新型コロナウイルス感染症流行に伴い、行事が短縮・縮小されている。これも、
効率化のいい機会になったのではないだろうか。新型コロナウイルス感染症が流行しなけ
れば、このようなことは考えていないのではないだろうか。

○ 子どもとともに育つ保育者

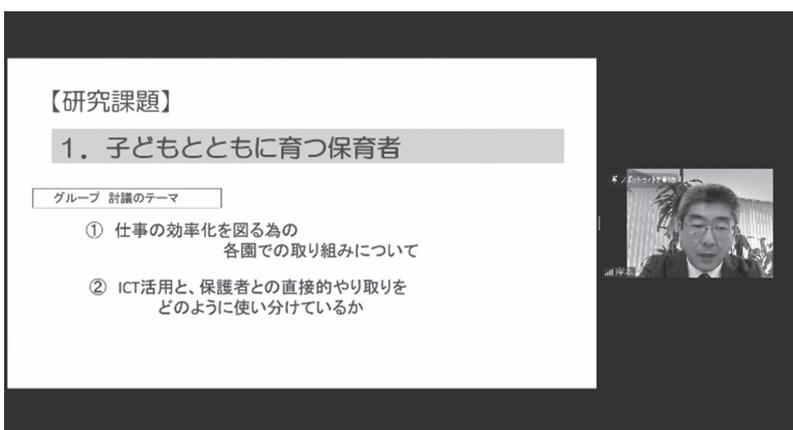
- ・ 「少子化は、急加速している」東京都を具体例にあげると、東京都 23 区の 0 歳児の定員は
ほぼ空いており、各区の定員の空きが 1,000 名以上である。このような中でも、入りたい
園・入りたくない園があり、選ばれる園は、満員になる園もある。葛飾区は、令和 4 年 4
月から公立の保育園入所を停止している。日本の中心でもこの状況である。幼稚園・保育
園の生き残りの競争が始まっている。子供の成長も考えていかなければならないが、まず
は、園の運営を考えていかなければならない。
- ・ 「未来を担う子どもたちの成長」「保育者の成長」が、子どもの成長につながる。園の良し
悪しは、職員で決まる為、職員全員が、この園で働けて良かったと想うことが大切である。
職員に選ばれる園は、保護者に選ばれる。

○ 幼稚園・保育園業界の改善点

- | | |
|---------------------|----------------|
| 1. 就業時間が不透明 | 2. サービス残業が当たり前 |
| 3. 休憩・休暇が取れない | 4. 産休・育休・時短勤務 |
| 5. パワハラ・セクハラ・職場のモラル | 6. 評価制度 |

【全体のまとめ】

- 時代の進化に合わせて、幼稚園・保育園も進化していくことが大切である。進化していくためには、新しい事に挑戦していかなければいけないが、新しい事には、必ずメリットとデメリットがある。デメリットや変更が必要な点を見つけて、素早く改善することが重要である。
- 保護者・職員に選ばれる園にする為には、全職員がこの園で働けて良かったと思う労働環境を整えることが重要である。この様な環境が整っている園では、職員の教育保育への取り組みの充実があり、在園している子どもの成長・発達が増々促されることが期待される。



助言者 岸本 至史 先生

説明の様子



オンライン分科会

参加者の様子



認定こども園高千穂幼稚園

ホスト会場の様子